



## 毎年の水(川遊び)の事故を防ごう

夏休み期間は川遊び中の痛ましい死亡事故が毎年発生しています。是非、川遊びに出かける前に川独特の危険性を知り、事故に遭わない、遭わせないようにしましょう。

警視庁が公表した水難事故件数（昨年夏季の統計）によると、7月と8月に発生した事故は488件、犠牲者は601人に及びました。このうちの三分の一の200人が川での死亡者でした。水難事故全体で何をしていたか別では、遊泳中が155人で全体の25%、次いで釣り中が84人（14%）、水泳が80人（13%）の順でした。



川遊び中の事故では、中学生以下の年少のお子さんの死亡が多いとのこと。河川の危険は、その流れが原因とされています。一見して穏やかそうに見える水流ですが、川底が急に深くなったり、流れが急に変化する場所が少なくありません。川底は平坦でなく、石や岩、流木で凸凹しており、また荻がついた部分も多く、足元の安定性に欠けています。

子どもは体重が相対的に軽いことで、水流に影響されやすく、流されてしまう危険性が非常に高くなります。一般的には海水浴に比べ来場者数が限られ、溺れている状態の人が周囲から発見される可能性が低くなります。当然ですが、地元の人より、行楽で訪れた外部の人が犠牲になる可能性が高くなっています。



前日の天候如何で河川水量も日々変わってきます。急な天候の変化での山間部の大雨は、河川洪水に直結するので、気象情報に常に耳を傾けておきましょう。（本号おわり）